

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	消火活動中、屋根上に設置されていたソーラーシステム（重量物）が落下した事例
3. 体験した事例の中心的要素	火災により、ソーラーシステムが設置されていた、屋根及び柱等が燃え細り、ソーラーシステムの重量に耐えられなくなり落下した。隊員は、ソーラーシステムの落下についての危険を認識していなかったが、指揮隊等が注意喚起を行い、隊員を退避させたことにより事故を事前に防げた。
4. 体験した事例の原因・理由	・ 建物の延焼状況を把握できずに、ソーラーシステムが落下するという認識がなかった。 ・ ソーラーシステムの重量、設置にかかる構造について知識がなく落下危険を意識していなかった。 ・ 消火活動に集中していて、高所の状況など周囲の状況監視に気づいていなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 19 年 3 月 21 日 午後 1 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋内：屋根の小屋組み（重量物含む）が2階床に落下。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	崩壊・倒壊(に巻き込まれる)、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動終了時、 [防火造建物]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	残火整理、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	1年に数度程度の割合で体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[39]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[14] 年、 階級[消防司令補]、同様の活動 [数年に1 度程度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、 階級[]、同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、 階級[]、同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	1 年前に壁体上部に取り付けられていたエアコン室外機が、壁体が焼損し落下したケースに遭遇した。当事案も事故者なし。

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	現着時	消火活動開始→ソーラーシステムに気がつかず	
経過 2	活動中期	他の倒壊危険場所に安全管理員として配置。ソーラーシステムには未だに気がつかず。	
経過 3	活動後期	全般を確認するため高台より確認すると、ソーラーシステムが傾いた状態で屋根上に確認。	
経過 4	確認後	全隊に周知し、退去命令。その 3 分後に落下。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。指揮者が適切に指示した。その他：全般を見渡す。安全管理隊を配置する等の対応が必要であった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：指揮スタッフはもっと早い段階で活動危険を予測する必要があった。

火災最盛期の屋根上ソーラーシステム



残火整理（火災後期）時に小屋組とともにソーラーシステムが落下したあとの状況



同場所から落下危険を予測、全隊に周知し、退去した後、約3分後に落下したものの。